

廃プラ類の処理状況について

～2019年度温室効果ガス排出量等実態調査結果より～

(公社) 全国産業資源循環連合会

(公社) 全国産業資源循環連合会では、正会員である都道府県協会会員企業（以下、会員企業と略記。）における主要な温室効果ガス排出量の算定や対策実施状況を把握するため、温室効果ガス排出量等実態調査（以下、実態調査と略記。）を毎年度実施している。

今年度の実態調査では、国内における資源循環に課題がある廃プラ類に関する会員企業への影響を確認するため、廃プラ類の受入等の動向に関する調査票を追加した（参考資料、参照）。

今回、2019年度実態調査結果のとりまとめに先立ち、廃プラ類に関する内容を取り急ぎ整理した。

1. 調査対象及び調査方法

(1) 調査対象

中間処理業もしくは最終処分業のいずれかの許可を持つ全ての会員企業と、収集運搬業の許可のみを持つ会員企業の中から都道府県ごとに40社程度を抽出した約7,500社を対象とした。

(2) 調査方法

「実態調査票」を調査対象会員企業に発送するアンケート方式で行った。調査票の発送及び回収は、郵送もしくはメールにより行った。

(3) 調査期間

2019年4月24日（水）～6月21日（金）

(4) 回答状況

回答状況は、以下に示すとおりであった。

表1 業種別の回答状況

業種	発送数	回答数	回答率
中間処理業	5,573	1,550	27.8%
最終処分業	678	210	31.0%
収集運搬業	6,897	1,764	25.6%
合計	7,503	2,018	26.9%

※ 複数の許可を持つ場合、中間・最終・収運のうちの複数の区分に重複して計上されることがあるので、各区分の合計と「合計」は一致しない。

※ 収集運搬業に関する発送数については、約2000は収集運搬業のみの許可を持つ社の分、その他約5000は中間処理業あるいは最終処分業の許可も持つ社の分である。

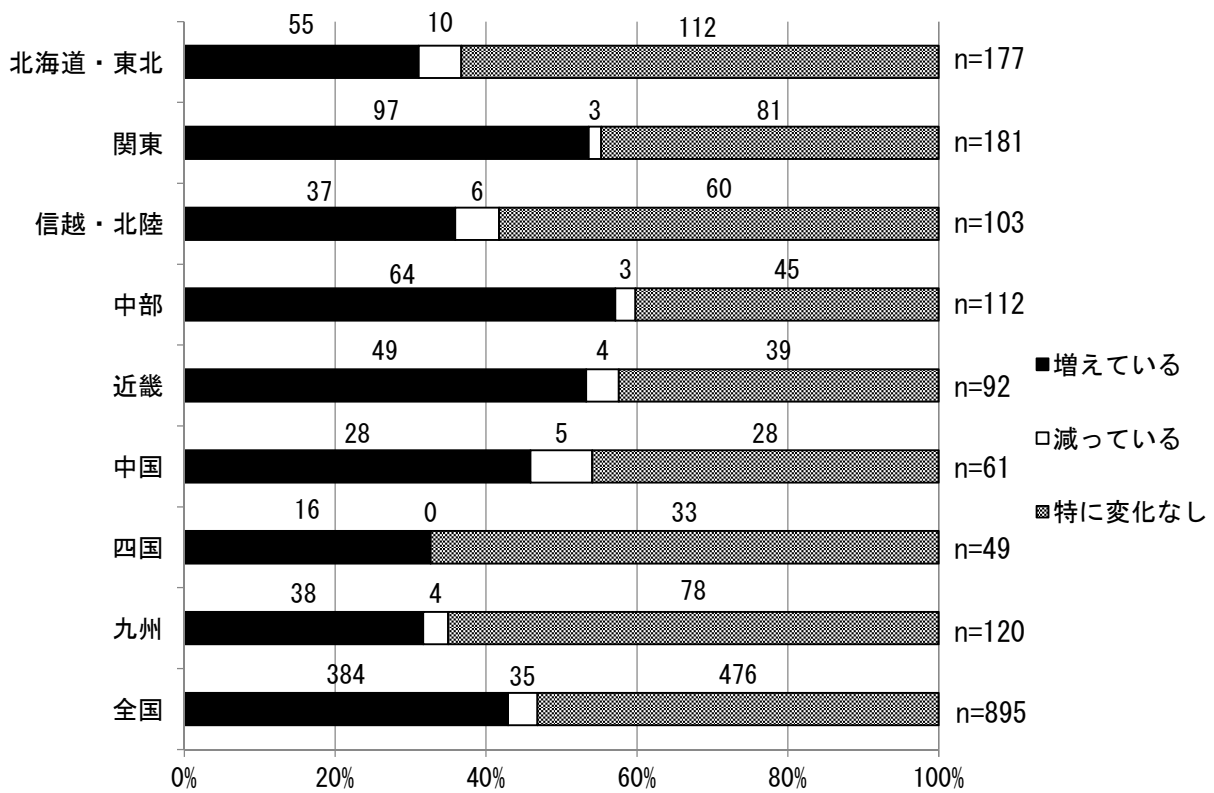
2. 調査結果

今回の調査結果は、8月29日（木）までの回答分を整理したものであり、次項のとおりであった。また、本調査のとりまとめは、下記8地域別に集計を行った。

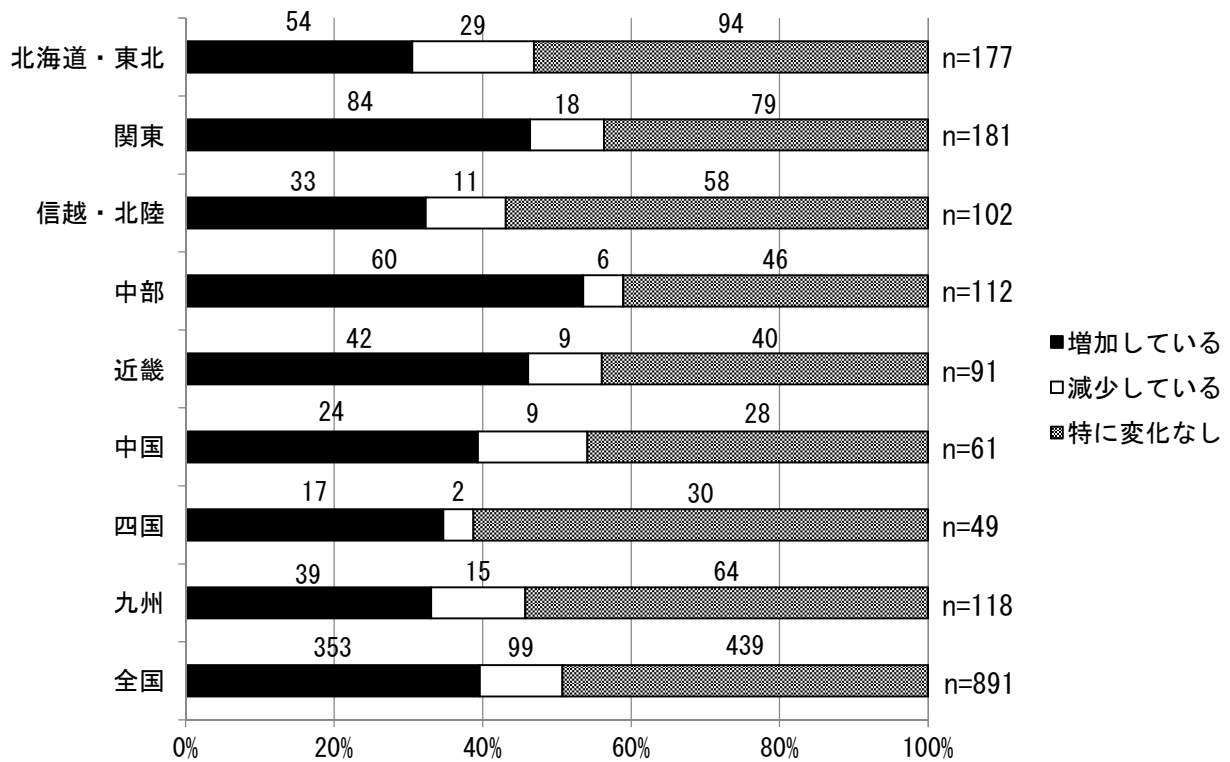
	対象地域
北海道・東北	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
信越・北陸	新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、
中部	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

2019年度廃プラ類に関する調査結果詳細

調査対象は、「廃プラ類」の取扱許可品目を取得しており、処理を行っている実績がある会員企業とした。



図ー1 廃プラの受け入れに関する新規問合せの件数(2017年度に対して2018年度が)



図ー2 廃プラの受入量(2017年度に対して2018年度が)

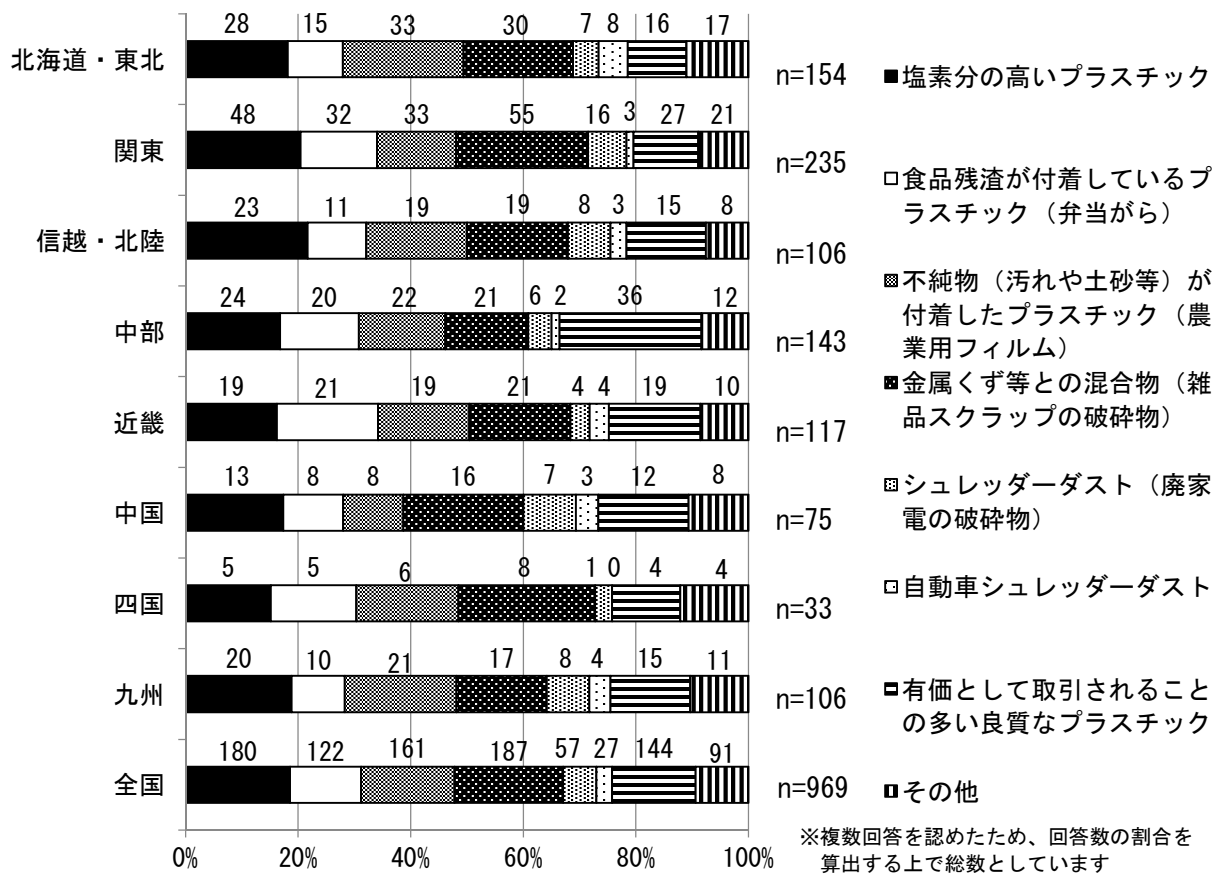


図-3 新規問合せ、または受入量が増加した廃プラの種類

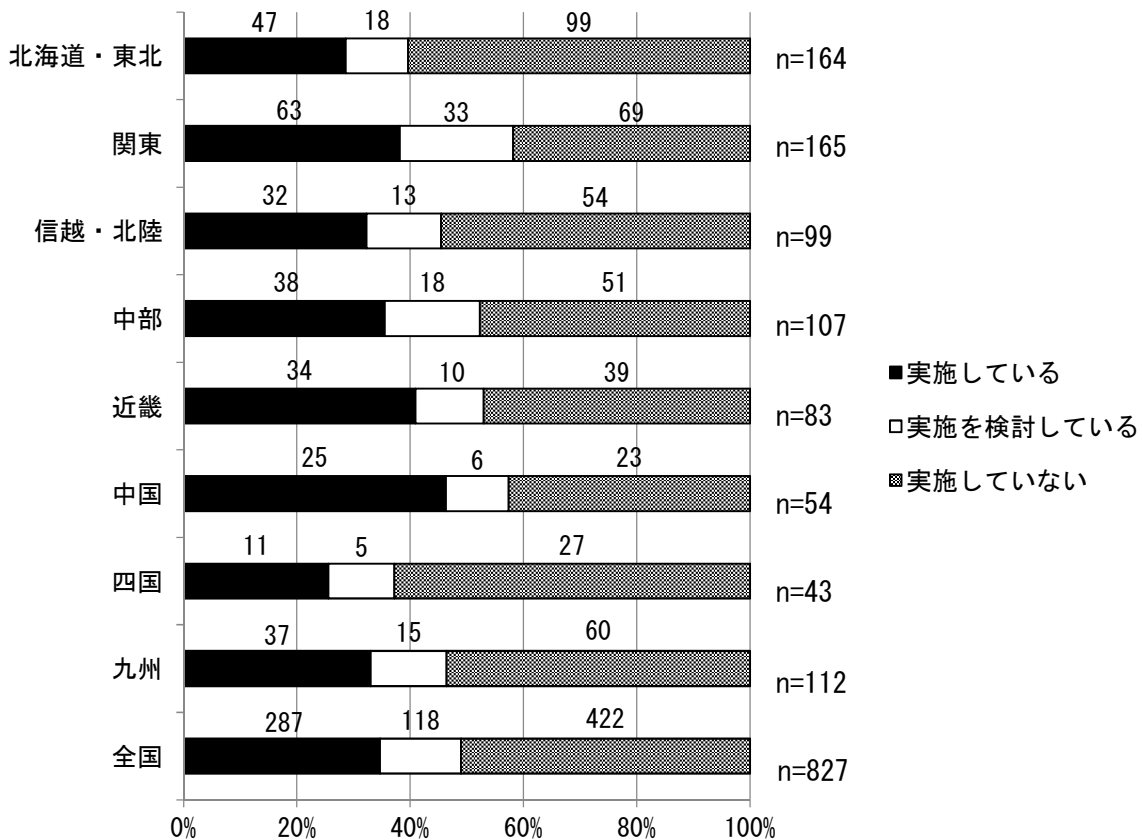


図-4 受け入れ制限の実施状況

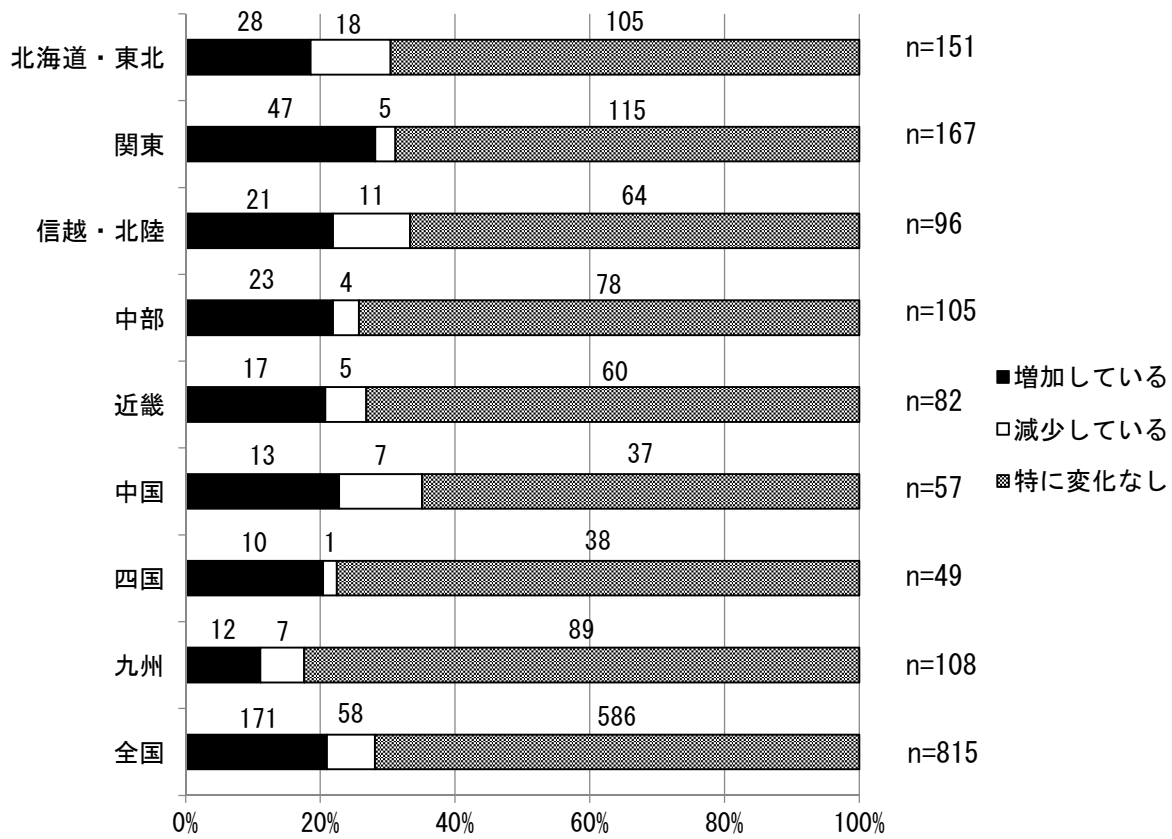


図-5 廃プラの保管量(2017年度に対して2018年度が)

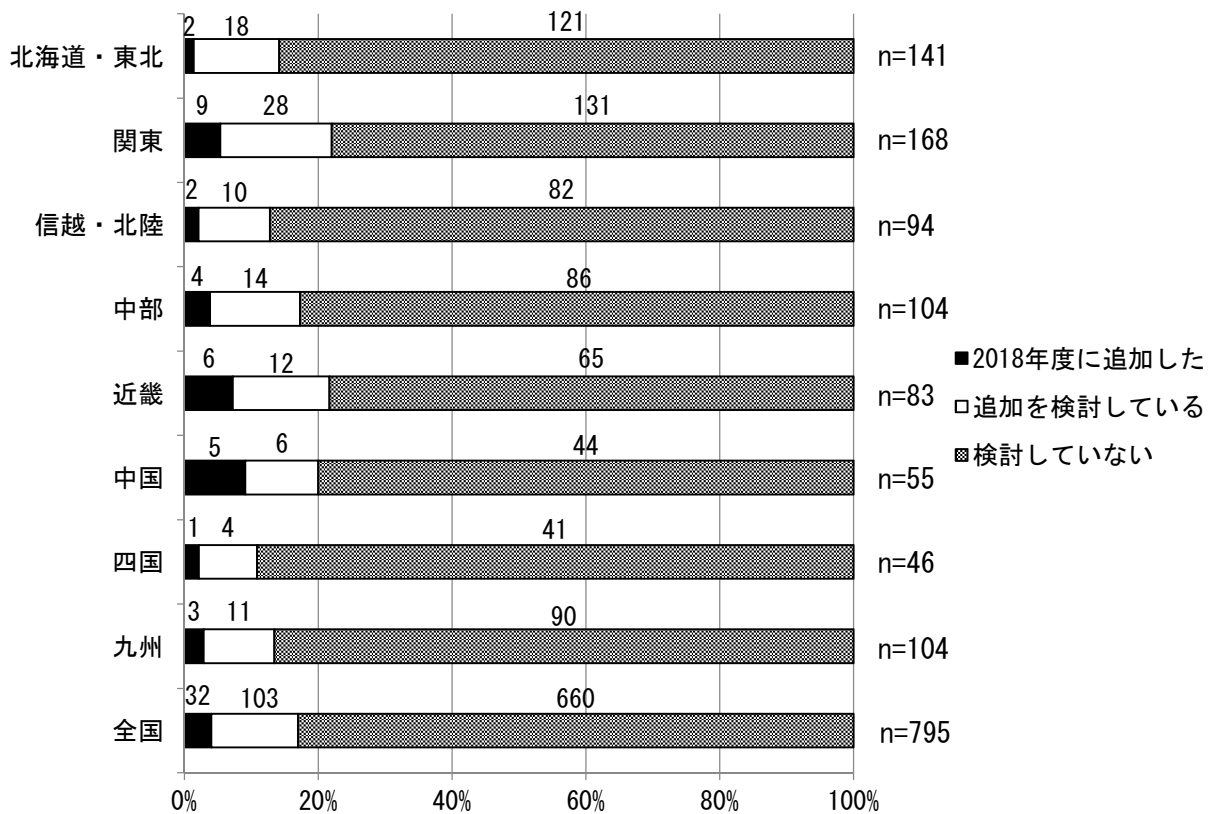


図-6 保管場所の追加確保

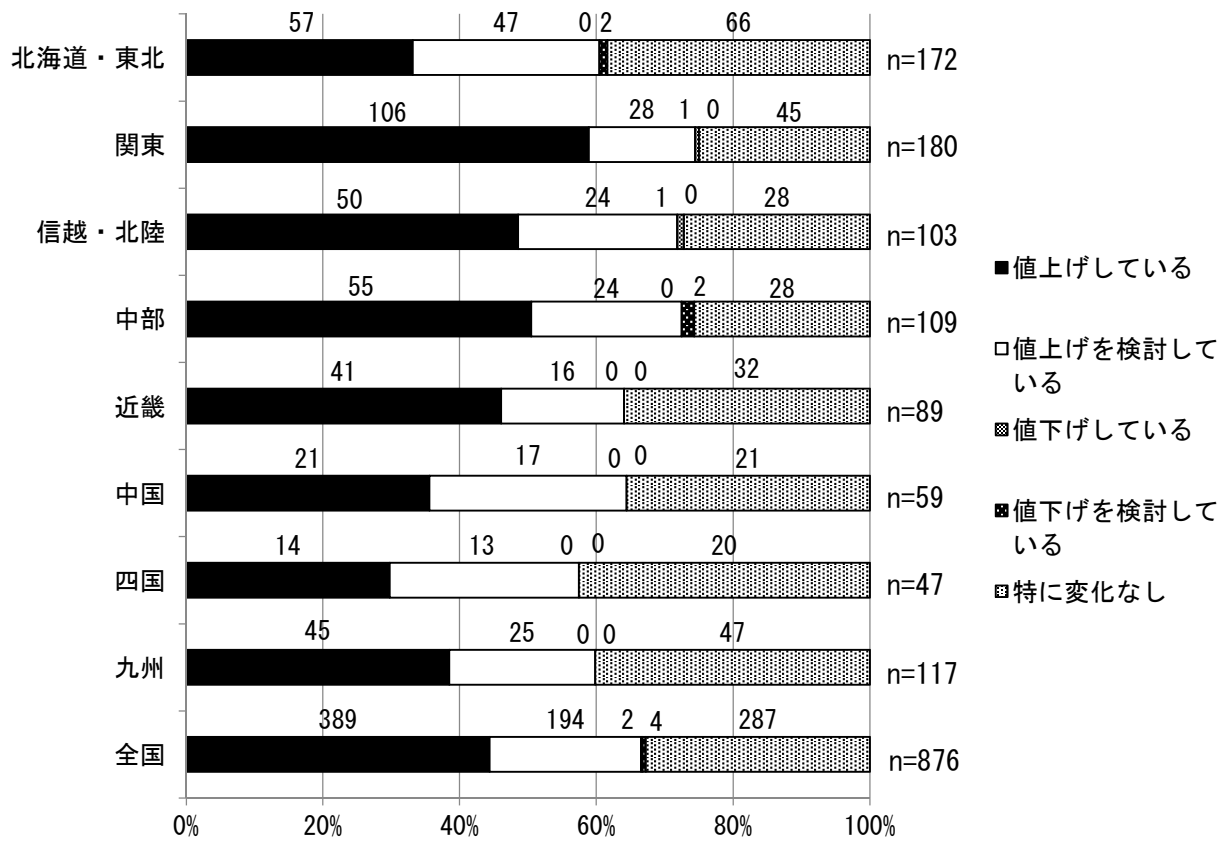


図-7 廃プラの処理料金

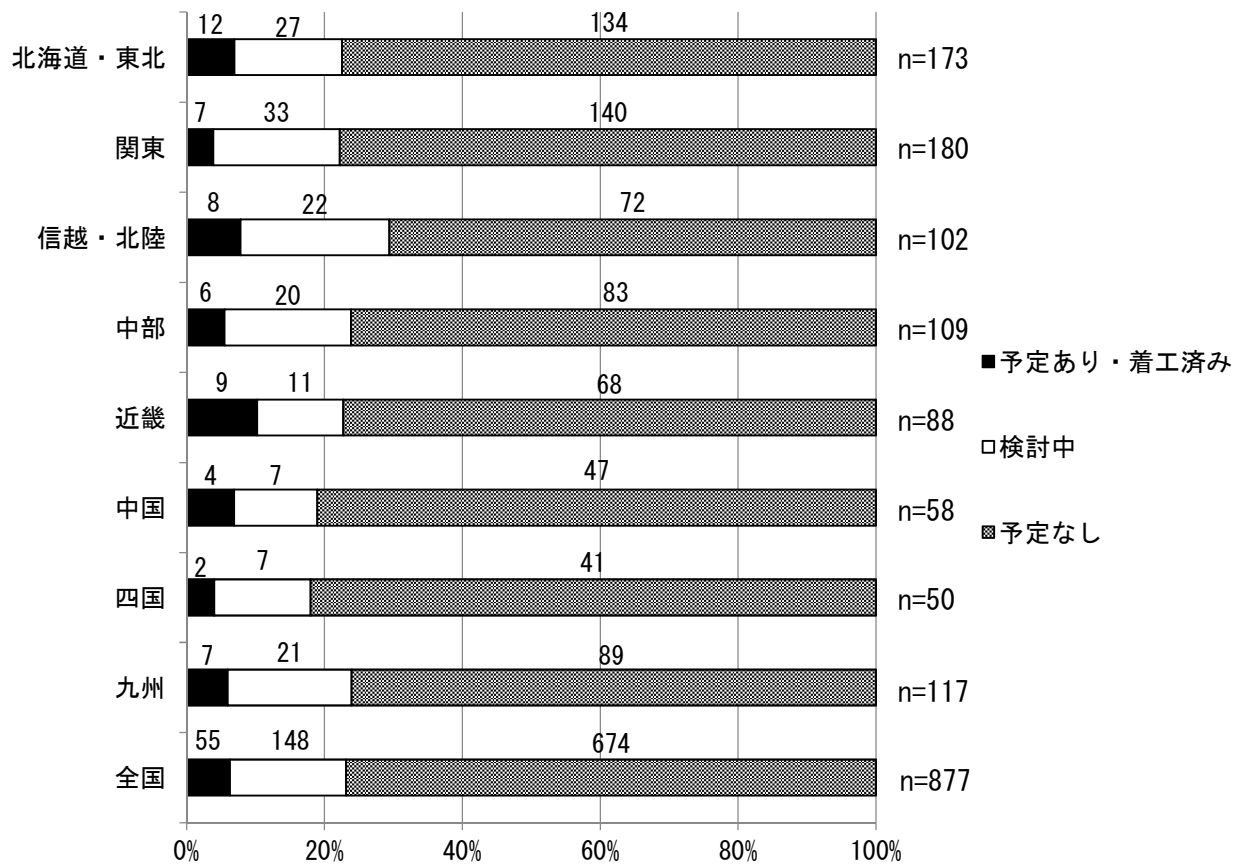


図-8 廃プラ処理施設の新增設の予定

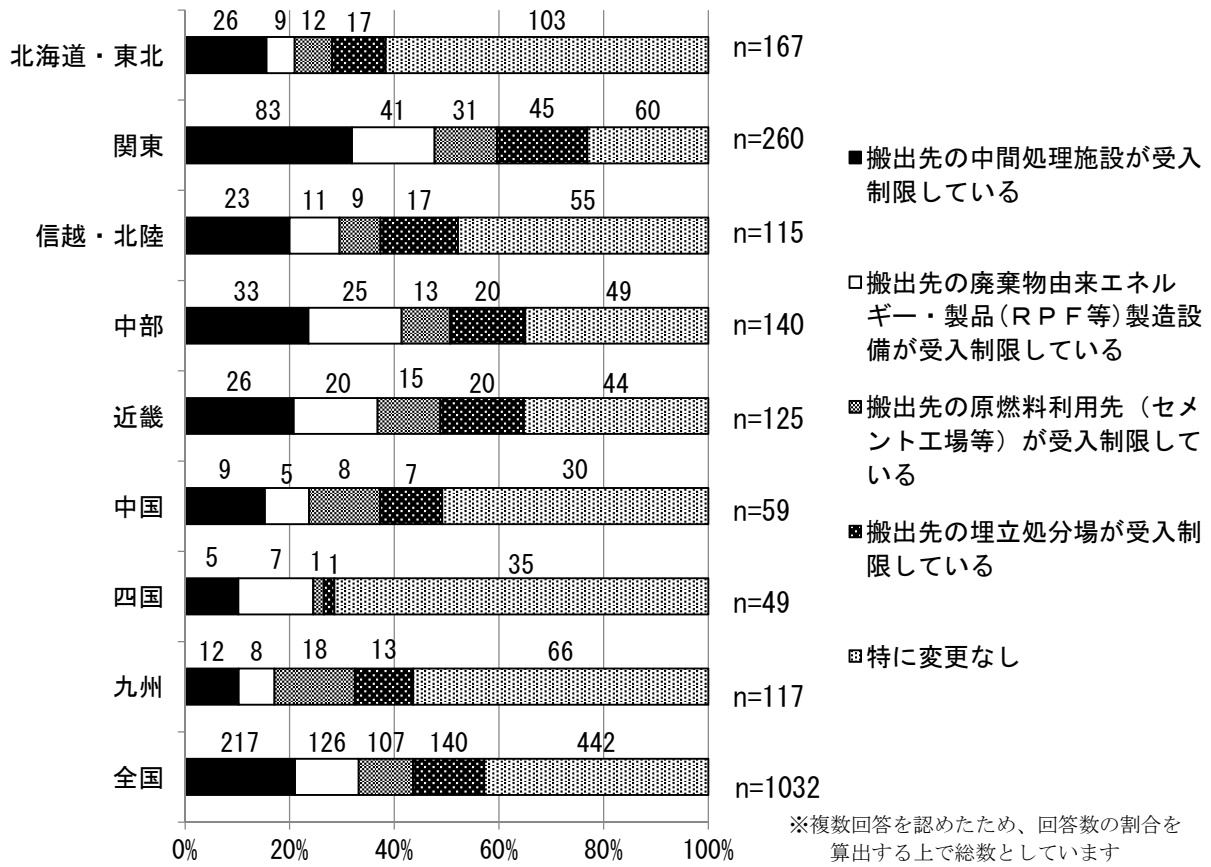


図-9 廃プラの搬出先の対応について

※「廃プラスチック類」の取扱許可品目を取得しており、処理を行っている実績がある
 会員が対象となります。

(1) 廃プラスチック類の受入や処理等の動向について

廃プラスチック類の受入や処理等の動向について	○貴社の廃プラスチック類の受入状況について	
	①廃プラの受け入れに関する新規問い合わせの件数 (該当するものに○)	2017年度に対して、2018年度の新規問合せが 1. 増えている 2. 減っている 3. とくに変化なし (増減している理由: _____)
	②廃プラの受入量 (該当するものに○)	2017年度に対して、2018年度の受入量が 1. 増加している 2. 減少している 3. とくに変化なし (増減している理由: _____)
	③新規問合せ、または受入量が増加した廃プラの種類 (該当するもの全てに○)	1. 塩素分の高いプラスチック 2. 食品残渣が付着しているプラスチック (弁当がら) 3. 不純物 (汚れや土砂等) が付着したプラスチック (農業用フィルム) 4. 金属くず等との混合物 (雑品スクラップの破砕物) 5. シュレッダーダスト (廃家電の破砕物) 6. 自動車シュレッダーダスト 7. 有価として取引されることの多い良質なプラスチック 8. その他 (_____)
	④受け入れ制限の実施状況 (該当するものに○)	1. 実施している 2. 実施を検討している 3. 実施していない
	○貴社の廃プラスチック類の保管状況について	
	⑤廃プラの保管量 (該当するものに○)	2017年度に対して、2018年度の保管量が 1. 増加している 2. 減少している 3. とくに変化なし (増減している理由: _____)
	⑥保管場所の追加確保 (該当するものに○)	1. 2018年度に追加した 2. 追加を検討している 3. 検討していない
	○貴社の廃プラスチック類の処理料金について	
	⑦廃プラの処理料金 (該当するものに○)	1. 値上げしている 2. 値上げを検討している 3. 値下げしている 4. 値下げを検討している 5. とくに変更なし (料金を変更した理由: _____)
○貴社の今後の廃プラスチック類への対応について		
⑧廃プラ処理設備の新增設の予定	1. 予定あり・着工済み 2. 検討中 3. 予定なし	
○廃プラスチック類の搬出先について		
⑨廃プラの搬出先の対応 (該当するもの全てに○)	1. 搬出先の中間処理施設が受入制限している 2. 搬出先の廃棄物由来エネルギー・製品 (RPF等) 製造設備が受入制限している 3. 搬出先の原燃料利用先 (セメント工場等) が受入制限している 4. 搬出先の埋立処分場が受入制限している 5. とくに変更なし 6. その他: (_____)	

【外国政府による廃棄物の輸入規制等に係る影響等について】

外国政府による廃プラスチック類の輸入規制による都道府県協会会員企業への影響を確認するため、会員企業のうち、廃プラスチック類 (廃タイヤを含む) の処理実績がある会員企業に対し、廃プラスチック類の受入や処理等の動向に関するアンケート様式を今回より追加しています。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。